特　色　麻布大学雑誌　第9・10巻・2004年

平成15年度高等教育改革推進経費報告

動物介在活動と療法に関する教育研究プログラム

Azabu animal-assisted therapy and activity educational program

太田光明

獣医学研究科動物応用科学専攻

Mitsuaki Ohta

Course of Animal Science and Biotechnology, Graduate School of Veterinary Science, Azabu University

Abstract. The Azabu AAT (animal assisted therapy) and AAA (animal assisted activity), educational program has been established for the postgraduate students since April 1, 2002, which is the first endeavor at the universities of the world and the president of IAHAIO (International Associate of Human-Animal Interaction organizations). The program has been developed by Dr. Dennis C. Turner who is the visiting professor at Azabu University. This program is not only admitted as a national license for the AAT/AAA in Switzerland, but also highly estimated the quality and effectiveness in Germany, Austria, Belgium, and the United States of America. The program for the 1st students had completed in March, 2004, and the 3 evaluated students were given the certificates for the completion of the program.

The program has been continued for the 2nd and 3rd students in 2004, and now the lectures had been finished as follows: the instruction for the human and animal interactions, the fundamental knowledge and technique for the AAT/AAA by Dr. Dennis C. Turner; service dogs, healthcare and public policy by Ms. Susan L. Duncan; working with prisoners, special needs and problems by Ann R. Howie.

目　的

動物介在療法（AAT）ならびに活動（AAA）に関する大学レベルの教育カリキュラムを，昨年度同様に本年度（平成15年）4月より開講している。この教育研究プログラムは本学客員教授であるDennis C. Turner博士（スイス）が1999年に完成させたドイツ語圏でのプログラムをわが国の実情に合わせて改変したものである。Turner博士のプログラムを受講し，修了した者は，スイスでは国家資格として認定され，またドイツ語圏でも国家資格に相当するライセンスとなっている。麻布大学AAT/AAA教育研究プログラム（Azabu animal-assisted therapy and activity educational program）のテキストはすべて英語で記述され，また，原則として，講義も英語で行われている。

欧米先進国に比べ，15年以上も遅れをとったわが国の「人と動物の関係学」分野あるいは「AAT/AAA」分野を少しでも引き上げるには，この分野の教育システムを充実させる以外にない。本教育研究プログラムは，昨年度とほぼ同様のカリキュラムを適用して実施した。

方　法

講師陣は，スイス（Dennis C. Turner），ドイツ（Erhard Olvrich），アメリカ合衆国（Suzan L. Duncan, Gail F. Melson, Cindy C. Wilson, Ann R. Howie）からの6名と，本学の講師（岩橋和彦，太田光明）から成り，主に大学院生を対象に実施されている。平成17年3月までに70時間の講義，28時間の学外実習，

80時間の演習，および論文（レポート作成）を修了し，口答試問に合格した者に対し，Dennis C. Turner，太田光明，および岩橋和彦の署名を付した認定証が発行される。

結果と考察

本教育研究プログラムは平成14年4月より開講しており，平成16年3月には第一期生が2年間のカリキュラムを終え，修了証（認定証）を取得した。現在は，二期生および三期生に対する講義および実習が行われている。二期生は，平成16年7月現在までに，Dennis C. Turner，Susan L. Duncan, Ann R. Howie，および国内の講師陣による講義を終えた。

1．講義

各講師の講義内容については，昨年度とほぼ同様である。AAT/AAAについての総括的な講義は，このプログラムの開発者でもあるDennis C. Turner博士によって行われた。また，サービスドッグについてSusan L. Duncan女史，刑務所でのAAT/AAAプログラムについてAnn R. Howie女史によって行われた。また，精神科医である横山章光氏より医療現場でのAATおよびペットロスとそのケアについて，北米障害者乗馬協会上級インストラクターである徳沢實氏より乗馬療法の方法と実状について，本学講師の岩橋和彦より精神障害の分類と診断について，太田光明からは日本におけるAAT/AAAの総括的な実状と諸外国の動向に関する講義が行われた。

Dennis C. Turner教授は4月7～11日および10月6～10日の2回に分けて計10日間講義した。前半の4月においては，人と動物の関係学をはじめとし，動物たちが私たちの健康と福祉に与える効果，動物種の違いによるAAT/AAAへの有用性，対象者の病状に合わせたAATプログラム作成における留意点，動物の適切な管理方法，動物を用いることの倫理的問題について講義を行った。

後半の10月ではAAT/AAAを実施するために，より具体的なプログラム作成方法，進行方法，社会的サポートとしてのコンパニオンアニマル，学校教育における動物導入の青少年への効果，家畜や野生動物のセラピー効果，AAT/AAAの企画立案と運営について講義した。また，より具体的なAAT/AAA現場を想定したディスカッショントレーニングも行った。

講義はAAT/AAAに最もよく使用される動物種であるイヌおよびネコをはじめとし，人と動物の関係学に基づいて，それぞれの動物種の家畜化の歴史，さらにそれらの動物たちと人との現代に至るまでの関係の変化，それぞれの動物種における感覚，発達，コミュニケーション方法などの行動学的特徴とそれらの動物種間での比較などといった，多岐に渡った内容であった。さらに，動物に対する愛着，社会的サポートの概念，ペットロスによる影響といった観点からも，人と動物との総合的な関係を論じ，人が動物から受ける様々な影響や，AAT/AAAにおけるこれらの動物の有用性を教示した。

また，現在までに行われてきたAATの事実例として精神的疾患，ダウン症候群，ADHD（注意欠陥多動性障害），およびCD（行為傷害）を例に挙げ，それぞれの具体的な動物介在療法と効果について紹介した。こうした事実例を踏まえ，AAT/AAAセッションにおける動物の選別，動物に対する倫理的側面，ストレス等を考慮した各動物種にとっての適切な飼育方法について講義した。また，学校教育において動物を導入することの有用性として，Animal Assisted Education（AAE）についての講義も行われた。

さらに，より実践的な内容として，AAT/AAAを行う上で対象者をサポートする医師や作業療法士，心理療法士，介在動物をサポートする獣医師との連携を考えたチームを構成することの重要性や，セッションの実施場所の選別やプログラム作成方法，セッションの評価方法について講義した。最終的にこれらの講義内容をふまえたディスカッショントレーニングとして，学生たちが実際に様々な状況下におけるAAT/AAA実施を想定しシミュレーションを行った。

Susan L. Duncan女史の講義は，2003年11月17・18日に実施された。講義内容は「介助動物との関わり」，「AAT/AAAに用いる動物の適性」であった。介助動物とは，障害を有する人々を補助し，彼らの機能的な独立を促すために訓練された動物である。講義では，特に介助犬の歴史，障害者と社会に対す

る役割，介助犬の適性及び育成，普及体制の歴史などについて，この分野において先進国である米国での状況と，日本の現状を踏まえた上で講義を行った。介助犬は補助器具としての役割だけに留まらず，精神的側面を含め使用者の様々な日常生活を支え，社会参加を促し生活の質を向上させるという様々な役割を担っていることを実感する講義であった。2日目の講義では，AATに用いる動物の適性について，人獣共通感染症などの衛生面や動物福祉の側面から講義した。さらにAATに使用する動物とハンドラーの関係，ハンドラーに必要とされる知識，また，AATの評価方法について，身体面，生理学，教育，認識面などの様々な側面からの具体例を提示しながら行われた。

Ann R. Howie 女史の講義は，2004年1月27・28日に実施された。講義内容は「刑務所におけるプログラムに関するニーズと問題点」，「AAT/AAAにおけるクライアントと施設の評価」であった。刑務所での犬のトレーニングプログラム（Prison Pet Partnership Program）は日本ではまったく実施されていないプログラムであり，受刑者は介助犬の育成を目的としたトレーニングを行う。本講義は，プログラムに参加する受刑者への影響と，用いられる犬の福祉に関する内容であった。受刑者の精神的側面への評価と共に，服役中に身につけた犬のトレーニングやトリミング技術は刑期終了後の社会への復帰にも大きな役割を果たす。このプログラムを受けた受刑者の再犯率はほぼ0％であるということからも注目すべきプログラムであることがわかる。

AATについての講義では，実際にプログラムを行うにあたり必要となる，施設，スタッフ，ボランティア，参加者などの注意点について事実例を踏まえて具体的に講義した。

2. 実習

アメリカ合衆国研修

AAT/AAAの分野に関して，先進諸国の様々なプログラムの実状を知ることでより多くの知識を身につけ，さらにそれらのプログラムの利点や問題点を探り，日本での導入の可能性を考察することを目的として，アメリカ合衆国への研修を行った。この研修では第1期生および第2期生の希望者を対象とし，2004年3月24日～28日にかけて合計4箇所の施設を訪問した。

初日にSummit Assistance Dogs（ワシントン州）を訪問した。Summit Assistance Dogsは，アシスタンスドッグを育成，供給することを目的とした非営利団体である。スタッフの多くはボランティアであり，トレーニングは教会の集会場を借りて行われている。トレーニングされる犬の多くはブリーダーから得た犬であり，中にはシェルターから引き取られた犬もいた。ここのトレーニングでは，クリッカーを使用した陽性強化法を用いていた。トレーニングは基本的には9ヶ月間行われ，オーナーが決定後合同トレーニングを2週間実施してから引き取られていく。

2日目，ワシントン州女性刑務所（Washington Corrections Center for Women）を訪問し，The Prison Pet Partnership Program（PPPP）を見学した。PPPPは，1981年にSister Pauline Quinnが，自分のように罪を犯してしまった女性たちや，捨てられた犬たちを救うために考案したプログラムである。シェルターに保護された犬を，受刑者たちが介助犬を目標としてトレーニングし，そのトレーニングを通して社会復帰のために様々なことを会得することが目的である。このプログラムは非営利団体によって運営されており，ワシントン州矯正局の職業訓練プログラムに導入されている。このプログラムには3つの利点が挙げられる。まず第一に，シェルターに保護され処分される運命の犬を救うこと，第二に介助犬を供給することで障害者を助けること，そして第三にトレーニングする受刑者自身の心が救われることである。受刑者に対する効果として，犬の日常の世話やトレーニングを通して忍耐力や責任感，自尊心などを取り戻すことを目的としている。この研修では，実際に刑務所の中へ入り，受刑者のトレーニングを見学できたほか，プログラムに参加している受刑者とコミュニケーションをとることができた。PPPPを受けた受刑者の出所後の就職率は100％，再犯率は0％と報告されている。

同じく2日目，動物保護シェルター（Animal Services（ワシントン州））を訪問した。犬以外にも猫やウサギなどのペットが保護されている。家族連れが気軽に訪れることができるような雰囲気であり，

譲渡を希望する犬と触れ合いながら実際に飼うことができるかどうか確認することができる施設となっていた。

3日目は，マクラーレン少年院（MacLaren Youth Correctional Facility（オレゴン州））を訪問し，Project POOCHを見学した。Project POOCHは罪を犯して少年院に収容された少年たちが，シェルターに保護された捨て犬たちをトレーニングして，新しい飼い主に譲渡するプログラムである。このプログラムは，少年院内にある高校の校長を勤めていたJoan Dolton氏によって，少年の心のケアや社会復帰の準備のために10年程前に始められた。Joanは現在もディレクターとしてプログラムを運営している。研修では，ワシントン州女性刑務所と同じ様に，実際に施設の中へ入り，プログラムに参加している少年たちとコミュニケーションをとることができた。少年たちは実際のトレーニングに参加する前にレクチャーを受けて，犬に関する基本的な知識を習得する。また，トレーニング以外にも，日常の管理全てを行う。トレーニングは陽性強化法で行われ，家庭での生活に必要なコマンドを徹底的に身につけさせる。彼らは犬のトレーニングを通じて自分自身をコントロールし，社会生活が送れるようになっていく。また，トレーニングの知識・技術を学ぶことで手に職を持つことができ，現在まで再び罪を犯して戻ってくる少年はいないとのことである。

精神病棟における犬を用いた介在活動実習

犬を用いた動物介在活動（AAA）実習として，第1期生および第2期生を対象に，常盤病院（東京都町田市）の精神病棟への訪問活動を行った。実施期間は2003年5月20日から7月29日までの全6回である。この実習では，今後各自がAAA/AATのプログラムを作成し実行できることを目標としている。統合失調症の患者15～20人を対象とし，20～30分のAAAセッションを行った。実習生は，犬のハンドラー，患者との会話役，ビデオ撮影および犬の行動評価をする係に分担して参加した。実習では事前にミーティングを行い，役割分担や注意事項，セッションの流れなどを確認した。また，終了後にディスカッションを行い，セッションに関する改善点などを出し合った。

本年3月には第一期生が2年間のプログラムを修了し，3名（小田切敬子，内山秀彦，辻村愛）の受講生が認定証を受けた。この認定証は，日本はもちろん，ヨーロッパおよび北米でも通用するものであり，認定を受けた者の社会での活躍が期待される。

尚，認定証を得た3名の課題レポートは，それぞれ質的に高度なものであり，学術雑誌への投稿が予定されている。

要　約

平成14年より行っている動物介在活動・療法（AAT/AAA）教育プログラムは，行動学者，人と動物の関係学の研究者，動物福祉の研究者，獣医師，心理学者，精神科医，心理療法士，ソーシャルワーカー，教育学者らが集まって，AAT/AAAに関わる人材を育てるための継続的な教育カリキュラムで，2年間で修了する。このプログラムは，Dennis C. Turner博士（Institute for applied Ethology and Animal Psychology所長，スイス，本学客員教授）によって開発されたもので，1998年に行われたプラハでのIAHAIO（International Association of Human and Animal Interaction Organizations）国際会議で発表され，1999年の4月に第1期生をスイスで迎え，現在はアメリカをはじめ国際的に認知されている。本学では，Turner博士を含む欧米の教育・研究者6名と本学教員からなる講師陣を構成し，獣医学部ならびに獣医学研究科の研究教育カリキュラムへの導入を図った。講義（英語）は，心理学，人と動物の関係学，人と動物に関する行動学，動物の心理学，AAT/AAAに携わる動物の適切なケア，AAT/AAAに関する倫理や危機管理，患者自身の安全管理，人畜共通感染症，動物のトレーニング方法，産業動物や野生動物を用いた作業療法など多岐にわたる。また，精神科病院や刑務所（アメリカ，カナダなど）の見学，学校への訪問など学外実習も含まれている。2年間の間に，課題レポート（英語）の提出があり，また最終試験は口答試問（英語）によって行われる。

このプログラムを修了することによって得た認定証は，日本はもちろん，ヨーロッパ各国および北米でも通用するものである。2004年3月に修了した第一期生に続いて，2003年4月より受講している第二期生への修了後の活躍が期待される。